様式１

特定農業振興ゾーン設定計画

項目	内容
位置及び規模	面積　２０　ｈａ 地区　平群町上庄・梨本地区 別添図を添付
地域の現状、課題と設定の目的	**イチゴ、小ギクを中心とした上庄・梨本スタイルの農地活用** 平群町上庄・梨本地区は昭和５０年代に圃場整備が進められ、上庄温室団地を中心に施設園芸が盛んに行われてきた。平成２０年頃から新たな担い手が温室団地を引き継ぎ、現在では「古都華」を中心にイチゴ産地に発展してきた。また、数名の担い手が個々の規模拡大による低コスト稲作に取り組んでいる。最近では平群町特産の小ギク農家の規模拡大に伴い、小ギク生産も盛んに行われている。 今後は、周辺住民に憩いと安らぎを提供できるよう農村環境を維持しつつ、それぞれの担い手が経営発展するように当地区を特定農業振興ゾーンに設定し、農地の集積・集約化を進め、まとまりのあるイチゴ団地の形成など上庄･梨本スタイルの効率的な農地活用を目指す。
高収益作物への転換	**奈良県を牽引するイチゴ「古都華」の産地づくり** 上庄温室団地では、３名の生産者が高設栽培でイチゴ生産を行っており、更なる規模拡大を目指している。また、新たにイチゴでの就農を目指し、先進農家での研修を志願する者も多い。平群町は県内市町村で「古都華」の栽培が最も多く、都市農業としての立地条件を活かし、いちご狩りなどの観光農園や市場出荷、道の駅での直売など販売チャネルも多く、上庄・梨本地区を核とした“「古都華」の平群”と言われる産地を目指す。 **イチゴと小ギクの産地間連携** 平群町は夏秋期日本一の生産を誇る小ギク産地であり、当地区においても作付面積が増えつつある。産地の優位性を強化するため、地区内の区画の整った水田を有効活用して施設栽培の導入等による端境期の出荷量の確保を目指す。 また、イチゴと小ギクは農繁期となる収穫最盛期が異なることから、生産者が相互に連携した産地間リレー雇用に取り組む。労働力を安定して確保できるようになれば、担い手個々の

<table>
<tr><td></td><td>規模拡大にもつながる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">耕作放棄地の解消・防止

地区内の大部分の農地は圃場整備が終わっており、数名の担い手が離農者の農地を借り受け、水稲の規模拡大を行っていることから、耕作放棄地の発生はほとんどない。今後は担い手の高齢化による耕作放棄地の発生も懸念されるため、特に未整備区域の圃場整備を進め、担い手が管理しやすくするなどの支援により耕作放棄発生の未然防止に努める。</td></tr>
<tr><td>多様な担い手の確保</td><td>地区内外から新たな担い手の確保

当地区はほとんどが兼業農家で農地を引き継ぐ後継者も減少していることから、地区内外から新たな担い手の誘致を進める。特にイチゴの先進経営体における新規就農希望者の技術習得を支援し、地区内での就農者確保を目指す。一方、水稲の規模拡大を行う担い手の育成により、引き続き農村景観の維持に努める。
<table>
<tr><td>担い手</td><td>現況　（5～10 年後）</td></tr>
<tr><td>人・農地プランの中心経営体</td><td>１０ 人　（３人増）</td></tr>
<tr><td>認定農業者
うち法人</td><td>７ 人　（２人増）
３ 法人　（１法人増）</td></tr>
<tr><td>認定新規就農者</td><td>０ 人　（２人増）</td></tr>
<tr><td>基本構想水準到達者</td><td>人　（ 人増）</td></tr>
<tr><td>今後育成すべき農業者
うち法人（企業等）
うち任意団体（集落営農等）</td><td>２ 人　（ 人増）
団体　（ 団体増）
法人　（ 法人増）</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>担い手への農地集積</td><td>景観に配慮した農地活用のシステム化

紀氏神社周辺の用水路にはホタルが生息しており、当地区の水田では、矢田山丘陵からの涌水を利用した美味しい米作りが行われている。１０年後の農地耕作者を明確にし、水稲作を上流域に集約するとともにイチゴ・小ギクはそれぞれ団地化を行うなど、農村景観に配慮した土地利用とそれぞれの担い手の効率的な営農につながる農地活用のシステム化を目指す。</td></tr>
<tr><td>農地の整備</td><td>未整備区域の圃場整備

地区内の一部未整備のままの農地については、将来、水稲や小ギク等の栽培に支障を来さないよう畦畔除去や農道の拡幅を行うとともに、圃場整備が完了して４０年以上経過した区域についても農道、用排水路等は老朽化が進んでいるため、施設の点検等を行い、補修等による改善に努める。</td></tr>
</table>

農業の近代化（先進技術導入）のための施設整備	**既存温室の長寿命化と新規施設整備** 上庄温室団地は整備後４０年以上が経過し、老朽化が著しく、長寿命化のための措置が必要である。また、イチゴの規模拡大や新規参入、小ギクのハウス導入に伴う施設整備を行う。 **スマート農業への取組** 環境モニタリングによる高度な技術の伝承、ハウス環境制御等スマート農業の導入を目指す。
都市計画等他の計画との関係で留意すべき事項	**都市化が進む地域の農地活用モデル** 平群町は農業を基幹産業として、小ギクやイチゴを主要品目とした生産振興を目指している。当地区の農地活用スタイルをモデルとして、優良農地の周辺で都市化が進む地域において将来の農地活用の目指すべき姿を確立する。
農業委員及び農地利用最適化推進委員の役割	**農地の集積・集約化** 持続的かつ効率的な営農のためには農地の集積･集約化が重要である。農業委員及び農地利用最適化推進委員は、高齢化により営農が困難となった農地について、農地中間管理機構を通じてのマッチングに努める。
その他	